

2024年10月1日

各位

株式会社クシム  
(東証スタンダード市場：2345)**「ASTERIA Warp 専門相談員」の配置による DX 化支援サービスの拡大**

当社の連結子会社である株式会社クシムソフト（以下「クシムソフト」）は、アステリア株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：平野洋一郎、証券コード：3853、以下「アステリア社」）の主力製品である、ASTERIA Warp シリーズ（以下「ASTERIA Warp」）の導入済み顧客および導入検討している見込み顧客（合わせて以下「顧客」）向けに「ASTERIA Warp 専門相談員」を配置し、顧客の DX 化加速に対するサービスを行うことを決定いたしましたので、お知らせいたします。

**Kushim**  
Soft**■ 「ASTERIA Warp 専門相談員」配置の背景**

クシムソフトは2023年6月にアステリア社と ASTERIA Warp テクニカルパートナーの契約を締結し、新たに DX 支援を実現するサービスを開始<sup>\*1</sup>しております。本業務を通じ、顧客の各事業現場では DX 化の加速とその内製化が進んでいると実感しております。

アステリア社では2015年から ASTERIA Warp のユーザーコミュニティ—AUG (ASTERIA Warp User Group) を運営し、2024年5月には開発者やユーザー企業、パートナー企業が相互に交流する場としてコミュニティサイト「Asteria Park」を新設しております。勉強会の開催や使い方のコツを紹介する動画の配信など、ユーザーへのノウハウ提供や多岐にわたるサポート体制を拡充しながら、カスタマーサクセスの強化にも取り組んでおります。今回、クシムソフトは「ASTERIA Warp 専門相談員」を配置することで、アステリア社の顧客向けの情報提供サービスに付随し、顧客の DX 化への更なる推進支援として活用いただけると考え、サービス開始を決定いたしました。

**■ サービス内容（概要）**

クシムソフトは「ASTERIA Warp 専門相談員」のチームを立ち上げ、顧客の各事業現場に訪問（対面またはオンライン）しサポートをいたします。サポート内容は、お困りごとや気になることのヒアリング、アドバイザーとして解決指南、ASTERIA Warp のテクニカルパートナー視点での活用方法、「Asteria Park」等のアステリア社にて用意されているサポートの仕組みに関する活用方法を情報提供いたします。（初回相談は無料対応させていただきます。）



## ■ 今後の展開

クシムソフトは、当サービスを通じて顧客と接点を持ち、ASTERIA Warp の「新規開発」や「修正／追加開発」を支援する機会を増やしてまいります。また、当サービスを行うエンジニアは、顧客課題に対して「解決力」のみならず課題の本質を見極める「洞察力」と「問題提起力」も必要とされることから、クシムソフトのエンジニアとしての市場価値向上も促進してまいります。

データ連携は DX 推進の中核となるテクノロジーであり、ASTERIA Warp を用いたサービス展開は顧客の DX 化に向けた基盤作りを支援し、その課題解決に資すると考えております。クシムソフトは、当サービスを通じて当社グループの更なる企業価値向上に寄与してまいります。

### 【本件に関する問い合わせ先】

株式会社クシムソフト

ソリューション開発事業本部 担当：小林

03-6427-7380（東京本社）

コーポレートサイト：<https://www.kushim-soft.co.jp/>

クシムソフトの ASTERIA Warp サービスページ：<https://www.kushim-soft.co.jp/service/dx/>

## ■ 「ASTERIA Warp」について

EAI/ESB 製品の国内市場において 17 年連続シェア No.1 製品<sup>※2</sup>である「ASTERIA Warp」は、異なるコンピューターシステムのデータを、ノーコードで連携できるミドルウェアです。メインフレームやクラウド上のサーバーから表計算ソフトまで、様々なシステム間の接続とデータの変換を行うロジックを複雑なプログラミングなしで行えることが評価されています。



アステリア社ホームページより、ASTERIA Warp のデータ連携の特長図示  
(<https://www.asteria.com/jp/warp/feature/>)

※1：2023年7月20日当社PRリリース参照

([https://www.kushim.co.jp/ir\\_news/pr\\_20230720/](https://www.kushim.co.jp/ir_news/pr_20230720/))

※2：出典／テクノ・システム・リサーチ社「2023年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」EAI/ESBは、それぞれEnterprise Application Integration、Enterprise Service Busの略で企業内外のデータ連携を司る製品カテゴリーを指す。

以上

